

# 世界文化遺産登録に向けて

## 国・県指定文化財

### (七) 河村彦左衛門供養塔・大久保長安逆修塔



▲大安寺

相川江戸沢町

1番ノ6にある

大安寺は、慶長11年（1606）、大久保長安

によって開基された浄土宗の寺院

で、境内には江戸時代の佐渡金

銀山に関係した人々の石造物が残されています。中でも本堂に向かって左側

にある屋根の付けられた大きな石の祠と、そこから奥の斜面にあるタブ林の中に建つ巨大な五輪塔が目を引きます。

これは前者が「大久保長安逆修塔」、後者が「河村彦左衛門供養塔」で、平成6年（1994）5月24日、国の史跡に指定されています。

#### ○河村彦左衛門供養塔

河村彦左衛門吉久は、越後国の大名家上杉景勝の家臣で、天正17年（1589）景勝が佐渡を領国とした時に派遣された代官の一人でした。彼は、慶長



▲河村彦左衛門供養塔

2年（1597）より島内の検地を実施して検地帳と呼ばれる土地台帳を作ったほか、鶴子銀山を管理して経営の才能を認められたことで、佐渡国が幕府の直轄地となると、徳川家の御家人となって引き続き代官の一人として佐渡に残りました。慶長8年（1603）、佐渡の農民が年貢増を幕府に直訴したこと、河村は、連帯責任として免職となり、代わって大久保石見守長安が佐渡代官（後に佐渡奉行）となりました。

供養塔は、慶長13年（1608）、河村彦左衛門の菩提を弔うために建立された石英安山岩製の五輪塔で、均整のとれた堂々としたものであり、慶長11年（1606）に開基した大安寺の中では最古の石塔です。高さは2.78メートル、各輪正面に五大種子を刻み、地輪正面に文字が刻まれ、背面に小泊村（現在の羽茂地区）の石工惣左衛門などの名前があり、小泊の石工の

手によって造られたことがわかっています。

このような巨大な五輪塔は、奉行の供養塔や山師の墓など島内に多く見られることから、江戸時代当時の佐渡金銀山の隆盛をうかがい知ることができ

#### ○大久保長安逆修塔

大久保石見守長安は、武田信玄の家臣として甲斐国（現在の山梨県）の金山開発などに功績のあった人物で、武田氏滅亡後は、徳川家康に仕えて伊豆の金山代官となり、のちに石見銀山や佐渡金山の代官となって江戸時代初期の幕府の経済を支えた人物です。大久保長安による佐渡の金銀山経営によって金銀の産出量が増加し、陣屋（後の佐渡奉行所）をはじめとする現在の相川市街地の原形が造られました。

「逆修」とは、生きている間に自分の死後の供養を行うことで、このために造られたものを逆修塔と呼び、大久保

長安のものは方形の切石上にある石造宝篋印

塔一基を石室の中に収納した形式です。

宝篋印塔は、全高110センチ、法名と慶長



▲大久保長安像

16年（1611）の銘が彫られています。塔の上部にある相輪は後に欠けたために取り

り除かれて、宝珠型に加工し直したと考えられます。石塔には、越前国（現在の福井県）の「笏谷石」と呼ばれる青緑色の石材が使われています。石室は、笏谷石の切石を組んだ切妻平入造りの屋根で、一部に安政3年（1856）の修復時に取り替えられた安山岩質のものが混じっています。石室背後には2体の如来像が半肉彫りされています。『佐渡国略記』に明和5年（1768）、本堂北側の現在位置に移された」と記されており、元の場所は本堂の南側にあったと考えられます。

石の風化が進んでいたため、平成8年（1996）に補修強化を目的として解体され、石材の保存処理が行われています。

#### 世界遺産・文化振興課

☎27-4170

#### おわびと訂正

市報さど10月号に掲載しました、「世界文化遺産登録に向けて—御料局佐渡支庁跡」について誤りがありました。掲載写真2段目左の御料局佐渡支庁跡全景と、3段目の鉱山長室内部は明治期ではなく、昭和12~16年頃のもので、おわびして訂正します。

